

## 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 毎年6月  
基準日 定時株主総会 毎年3月31日  
期末配当 毎年3月31日  
中間配当を行う場合 毎年9月30日  
(その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。)

公告方法 電子公告の方法により行います。  
ホームページアドレス <http://www.honyakuctr.com>  
ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号  
中央三井信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
中央三井信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)  
取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店  
ならびに日本証券代行株式会社の本店および  
全国各支店で行っております。

上場証券取引所 大阪証券取引所  
JASDAQ スタンダード

証券コード 2483

### ・住所変更等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の  
口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

### ・未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

### 見通しに関する注意事項

この報告書には、翻訳センターグループの将来についての計画や戦略、業績に関する予想および見通しの記述が含まれております。これらの記述は過去の事実ではなく、当社が現時点で入手可能な情報から判断した見込みであります。世界経済の動向、税制や諸制度などに関するリスクや不確実性を制限なく含んでおり、実際の業績や結果は当社の見込みと異なる可能性があることをご承知おきください。

## 個人投資家向け会社説明会 開催案内

### 【東京】

開催日 **2010年12月6日(月)**

時間 12:30～

会場 東京証券取引所ビル6階  
日本証券アナリスト協会  
第1セミナールーム

定員 200名(参加費無料)

### 【大阪】

開催日 **2011年3月16日(水)**

時間 14:40～

会場 TKP大阪淀屋橋  
カンファレンスセンター

定員 130名(参加費無料)

### 【お問合せ・お申込み先】

#### 【東京】

㈱日本証券アナリスト協会

TEL 03-3666-1632

E-Mail [i-kaisai@saa.or.jp](mailto:i-kaisai@saa.or.jp)

#### 【大阪】

㈱日本証券アナリスト協会  
大阪支部

TEL 06-6231-6234

E-Mail [s-osaka@saa.or.jp](mailto:s-osaka@saa.or.jp)

HPアドレス <http://www.saa.or.jp>



株式会社 翻訳センター

お問合せ先  本社

〒541-0046

大阪府中央区平野町2丁目5番8号

平野町センチュリービル9F

Tel: 06-6204-1640

e-mail: [info@honyakuctr.co.jp](mailto:info@honyakuctr.co.jp)



## 第25期 中間期のご報告

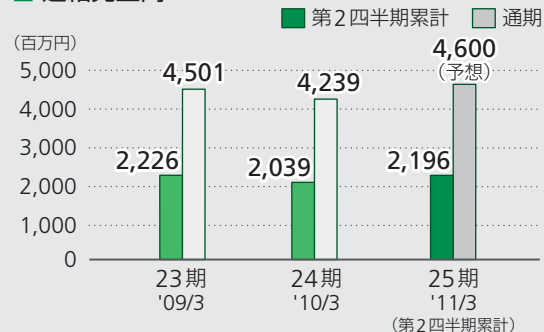
2010年4月1日～2010年9月30日

株式会社 翻訳センター

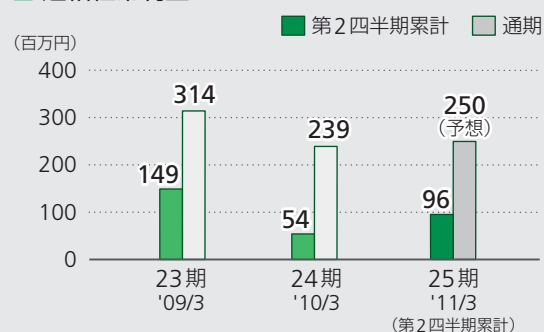
Achievement Highlights

## 業績ハイライト

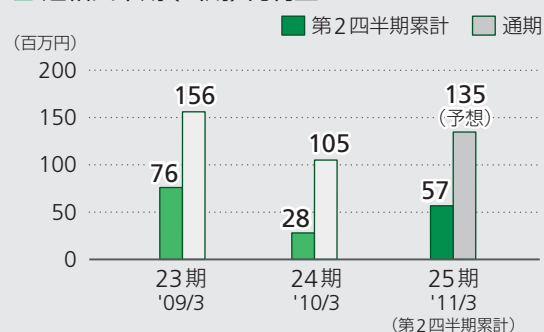
### ■ 連結売上高



### ■ 連結経常利益



### ■ 連結四半期(当期)純利益



## 当第2四半期連結累計期間のポイント

- 売上高におきましては、医薬分野の受注が堅調に推移していることに加え、前年落ち込んでおりました工業・金融分野の受注が回復傾向にあることなどから、前年同期比7.7%増収の2,196百万円となりました。
- 利益面におきましては、売上原価と販売管理費のコントロールが奏功したことに加え、米国子会社（HC Language Solutions, Inc.）の利益が大幅に増加したことにより、経常利益は前年同期比76.6%増の96百万円、四半期純利益は前年同期比103.4%増の57百万円となりました。

## ■ 分野別の概況

### ■ 特許分野

一部企業において知財関連予算の抑制が緩和される動きがあったものの、出願件数の減少傾向は続いており、主要顧客である特許事務所の経済環境は依然として厳しいことから、売上高は前年同期比4.5%減の625百万円となりました。

### ■ 医薬分野

医薬分野では、メガファーマからの受注が堅調に推移したことに加え、医療機器関連の案件も増加を維持したため、売上高は前年同期比9.0%増の729百万円となりました。

### ■ 工業分野

自動車完成車・部品メーカーからの受注が回復傾向にあり、電機および通信関連企業からの受注も増加したことから、売上高は前年同期比11.4%増の530百万円となりました。

### ■ 金融分野

第1四半期におけるディスクロージャー関連、特に株主総会関連資料の受注増加と一部金融機関やリサーチ会社からの受注が好調を維持し、売上高は前年同期比24.8%増の221百万円となりました。

Top Message

## トップメッセージ

## 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、日頃より当社グループに対する温かいご支援ならびにご鞭撻を賜り、誠にありがとうございます。

当社グループは、翻訳業界のリーディングカンパニーとして、顧客企業のグローバル展開を側面から支援するとともに、さらなる翻訳業界発展のため、当社グループの企業価値向上だけでなく、翻訳者の地位向上ならびに翻訳業界の認知度向上も志向し、産業翻訳業界のデファクトスタンダードを目指して、日々邁進しております。

さて、わが国の経済は、堅調な輸出や生産の回復に伴う企業収益の改善が続き、持ち直しの傾向がみられる一方で、景気刺激策の終了や円高の進行、デフレの影響など、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

このような環境の下、当社グループの第2四半期連結累計期間の業績は、売上高2,196百万円（前年同期比7.7%増）、営業利益106百万円（前年同期比98.9%増）、経常利益96百万円（前年同期比76.6%増）、四半期純利益57百万円（前年同期比103.4%増）となりました。10月26日に業績の上方修正を発表しましたとおり当社グループの業績は期初計画を上回って堅調に推移しております。



代表取締役社長  
東 郁男

さて、この上半期は、アジアの富裕層をターゲットとした医療観光や渡航ビザ緩和による中国からの観光客増加、電子書籍の台頭など、今後の産業翻訳市場への影響を予期させる事柄が話題になりました。また、今年7月にエムスリー(株)ならびに(株)ウィザスへの第三者割当増資を実施し、向こう2年間で調達資金を活用した新たな事業展開も予定しております。

当社グループといたしましては、このような産業翻訳を取り巻く事業環境の変化をチャンスと捉え、翻訳業界のトップ企業としての規模、組織力などの強みと特徴を活かして着実なシェアアップを図りながら、前期に導入した翻訳支援ツール「HC TraTool」など当社独自のシステムを活用して収益力を強化するとともに、新たな事業展開を図り、将来の収益源の確保に努めてまいります。

当社グループ役員一同、一丸となって尽力しております。株主の皆様には、当社グループ事業および企業理念をご理解いただき、今後も引き続きご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

## エムスリー株式会社との資本・業務提携に関して

### 1. 資本・業務提携契約の主旨

当社と日本最大規模の医療従事者向け医療サイトを運営するエムスリー(株)は、医療情報の流通における言語障壁を取り払うことによって医療界に貢献するために、医療界で日々発信される多種多様な情報を翻訳して情報へのアクセスを容易にするという点で事業シナジーが得られると判断し、2010年5月14日に資本・業務提携を締結いたしました。

### 2. 資本・業務提携の内容

#### (1) 資本提携の内容

当社が第三者割当により新株式3,750株を発行、このうち3,450株(当社発行済株式総数の20.48%)をエムスリー(株)が取得し、当社はエムスリー(株)の持分法適用関連会社となりました。

### (2) 業務提携の内容

#### ① 「m3.com」を通じた医学論文翻訳サービスの提供

医師を中心とした医療従事者には、自身の研究成果を論文発表という手段で世界に発信するニーズがあります。当社はエムスリー(株)が運営する「QOL君」を通じ、「m3.com」の医師会員を対象とした医学論文翻訳サービスを提供してまいります。

#### ② 医療情報のグローバルな流通における協業

医師をはじめとする医療従事者は、臨床現場において、国内の医療情報のみならず海外で発信される最新ニュースやエビデンス(科学的根拠)情報等の入手が不可欠となっております。当社は、エムスリー(株)による医療情報のグローバルな流通基盤強化に向けた翻訳業務のパートナーとなり、医療情報のクオリティを向上させ、日本の医学に貢献してまいります。

## 第三者割当増資による新たな事業展開について

2010年7月20日、エムスリー(株)と(株)ウィザスを割当先とする第三者割当増資を実施しました。従来の翻訳サービスの域を拡大させた高付加価値サービスの追求と、当社の事業展開の基盤である翻訳者の教育・拡充を行い、当社の企業価値をより高めてまいります。

#### ・ローカライゼーション/マニュアル翻訳サービス

エンジニアリングを含めた翻訳の現地化(Localize)業務を翻訳支援ツール「HC TraTool」等の活用によって促進し、新規市場開拓に取り組んでまいります。

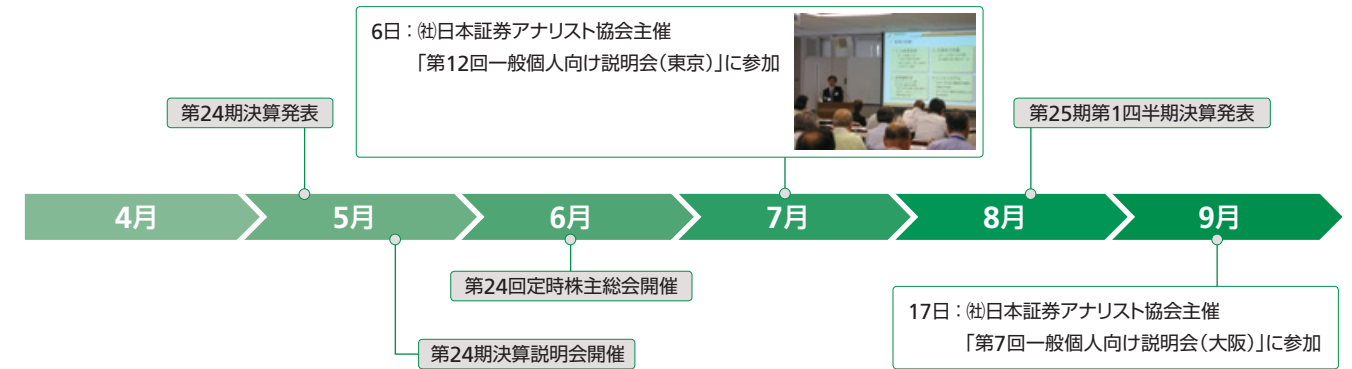
#### ・特許出願支援サービス

従来の翻訳業務に加えて、英文明細書の作成支援や図面作成、出願事務手続きなどの外国出願に付随する周辺業務を一括受託することで、現在の主な顧客である特許事務所だけでなく企業の知的財産関連部署からの受注も目指し、特許分野での営業チャンネルを拡大させてまいります。

#### ・語学教育サービス

優秀な翻訳者を長期的かつ安定的に確保するため、現在、翻訳センターが運営している翻訳センターアカデミーでの通信教育事業の拡充とeラーニングシステムを活用した教育サービスを展開し、積極的な人材育成を目指してまいります。

## 2010年度上半期の翻訳センターの主なIR活動をご報告します



## TOPICS 20周年記念 JTF翻訳祭

JTF翻訳祭は、(株)日本翻訳連盟(会長 東 郁男)が主催する翻訳業界最大級のイベントです。今年は公益法人化20周年を記念して開催規模を拡大、業界の現状や未来図について議論します。

### 『翻訳で切り拓く日本の未来 - 需要開拓と新技術 -』

日 程 : 2010年12月13日(月)10:00~20:00 (開場9:30~)  
 会 場 : アルカディア市ヶ谷(東京・市ヶ谷)  
 主 催 : 社団法人 日本翻訳連盟

※翻訳プラザ(展示・デモコーナー、書籍翻訳相談コーナー)のご参加は申込不要です(無料)。

※講演・パネルディスカッション、交流パーティーのご参加は事前申込が必要です(有料)。

詳しくは、(社)日本翻訳連盟ホームページ  
<http://www.jtf.jp> をご覧ください。

## ホームページのご案内



当社ホームページにおきましても最新のトピックスをはじめ、様々な情報をご案内しております。

詳しくは >>>

<http://www.honyakuctr.com>

## 連結財務諸表

### 四半期連結貸借対照表(要旨)

(単位:千円)

科目	当第2四半期末 2010.9.30現在	前期末 2010.3.31現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	2,377,835	1,940,969
固定資産	396,925	425,604
有形固定資産	40,038	47,334
無形固定資産	156,926	174,667
投資その他の資産	199,961	203,602
資産の部合計	2,774,760	2,366,574
<b>負債の部</b>		
流動負債	600,770	582,110
固定負債	134,588	127,025
負債の部合計	735,359	709,135
<b>純資産の部</b>		
株主資本	2,045,115	1,662,420
資本金	588,443	399,818
資本剰余金	478,823	290,198
利益剰余金	977,849	972,404
評価・換算差額等	△ 5,714	△ 4,982
其他有価証券評価差額金	△ 1,765	△ 1,783
為替換算調整勘定	△ 3,949	△ 3,198
純資産の部合計	2,039,401	1,657,438
負債・純資産の部合計	2,774,760	2,366,574

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

### 四半期連結損益計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	当第2四半期(累計) 2010.4.1~2010.9.30	前第2四半期(累計) 2009.4.1~2009.9.30
売上高	2,196,532	2,039,322
売上原価	1,256,499	1,119,870
売上総利益	940,033	919,452
販売費及び一般管理費	833,982	866,159
営業利益	106,050	53,292
営業外収益	402	1,693
営業外費用	9,539	115
経常利益	96,913	54,871
特別利益	287	822
特別損失	5,537	—
税金等調整前四半期純利益	91,663	55,693
法人税等	33,838	27,269
四半期純利益	57,825	28,424

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

### 四半期連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:千円)

科目	当第2四半期(累計) 2010.4.1~2010.9.30	前第2四半期(累計) 2009.4.1~2009.9.30
営業活動による キャッシュ・フロー	134,080	65,451
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 205,382	△ 38,219
財務活動による キャッシュ・フロー	319,201	△ 54,776
現金及び現金同等物に 係る為替換算差額	75	△ 1,011
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	247,974	△ 28,555
現金及び現金同等物の 期首残高	1,062,186	1,004,115
現金及び現金同等物の 四半期末残高	1,310,160	975,559

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

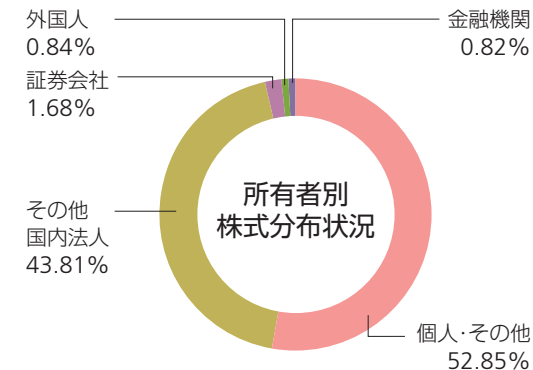
## 株式の状況 & 会社概要

### 株式の状況 (2010.9.30現在)

発行可能株式総数 51,400株  
発行済株式総数 16,845株 (自己株式はありません)  
株主数 1,483名  
大株主(上位10名)

株主名	持株数
株式会社 ウィザス	3,560株
エムスリー株式会社	3,450
東 郁 男	706
池 亀 秀 雄	517
重 田 康 光	513
浅 見 和 宏	427
翻訳センター従業員持株会	331
岩 崎 泰 次	297
角 田 輝 久	267
二 宮 俊 一 郎	242

### 所有者別株式分布状況



### 会社概要 (2010.9.30現在)

商 号 株式会社 翻訳センター  
設 立 1986年4月  
代 表 者 東 郁 男  
本 社 所 在 地 大阪府大阪市中央区平野町2丁目5番8号  
平野町センチュリービル9F  
資 本 金 5億8,844万3,000円  
従 業 員 数 221名(連結)  
事 業 内 容 翻訳サービス業  
グ ル ー プ 会 社 株式会社国際事務センター  
HC Language Solutions, Inc.  
株式会社HCランゲージキャリア  
北京東櫻花翻訳有限公司

### 役員

代表取締役社長 東 郁 男  
取 締 役 二 宮 俊 一 郎  
取 締 役 浅 見 和 宏  
取 締 役 角 田 輝 久  
取 締 役 中 本 宏  
取 締 役 楠 見 賢 二  
取 締 役 池 亀 秀 雄  
常 勤 監 査 役 橘 正 宏  
監 査 役 妙 中 厚 雄  
監 査 役 松 村 信 夫